

第7回工作交流会

アスベスト被害、偽装請負など学習



正門を入っての見事な桜並木

第7回目となる工作協議会の交流会が4月7、8日に東京総合車両センター内で行われ、長野より6名で参加してきました。小野議長は挨拶で「工作の横のつながりが少しずつ出来てきたのではないかと。外注化提案がされているが、安易なものには反対をしている。いろいろな相談しながらやってきた内容が基本要素となっている。取り組みを強化して欲しい。組織拡大は一括和解以降100名となった。引き続き働きかけをしてほしい。今回の交流会での経験を各地に

第7回目となる工作協議会の交流会が4月7、8日に東京総合車両センター内で行われ、長野より6名で参加してきました。

発行者 久保田清一
編集者 支部教宣部
2012年 4月17日
第71号



持ち帰り運動の糧にしてほしい」との話がされました。

国労本部小池執行委員よりアスベスト被害の報告

東京地本、運輸協議会より連帯の挨拶、東日本本部松井書記長より来賓挨拶の後、本部執行委員小池さんよりアスベスト被害についての報告がされました。国鉄は他の産業に比べても高い発症率がある。多くは退職してから発症し、本人・家族も気づかない。現職死亡も存在（長野も1名）。

・各地方において学習会や周知の徹底を行っているが、申し込みが圧倒的に少ない（自分は大丈夫との過信）。

・保障制度の無知や当人の高齢化があり、継続した取り組みが必要。

との話がされました。長野工場は苗穂（34）、浜松（23）、について19人と多く退職者の会との連携が必要と感じました。

その後、業務関係・組織拡大に分かれての分散会を行い、場所を変えてお酒を酌み交わしての交流会となり、おおいに盛り上がりしました。

埼玉法律事務所、高木弁護士より偽装請負で講演



2日目は各分散会の報告と高木弁護士より偽装請負の講演と各地方よりの質疑応答となりました。

・JR社員と委託社員が話をしているだけ。

・委託業者がJRの設備を使つて他の（都営地下鉄・モノレール）検修を行っている。

・請負先に技術がなく検修に地方からやってくる。

・1次下請けと2次下請けの作業服が同じ。

など、明確に違反なのかどうかわからない事象もあり、いろいろと勉強になった交流会でした。

